

U.S. Indicators

発表日: 2023年11月29日(水)

米国 11月CB消費者信頼感指数は改善も低下基調

～現状の低下が続いたものの、先行きへの期待改善が消費者マインドを下支え～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年11月のCB消費者信頼感指数は、102.0（前月99.1：改定前102.6）と市場予想の101.0（筆者予想102.7）への低下に反して、2.9ポイント上昇した。11月のCB消費者信頼感指数は、良好な労働市場を背景に比較的高い水準を維持した。ただし、7-9月期の水準を下回っており、個人消費の緩やかな減速を示唆している。

現状指数が138.2（前月138.6：改定前143.1）と前月比▲0.4ポイント低下した一方、期待指数が77.8（前月72.7：改定前75.6）と同+5.1ポイント上昇した。物価高や金利上昇による家計負担の増加等によって、現状指数は低下傾向を辿っている。一方、所得の先行きへの楽観的な見方が強まったほか、景気や雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まり、期待指数は上昇した。

現状指数の構成項目では、「雇用」がほぼ前月程度のプラス幅となった一方、「景気」がプラスに転じた。現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）が+23.9（前月+23.8：速報+26.3）とプラス幅を維持、現在の労働市場に対する楽観的な見方はほぼ変わらずとなった。現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、失業率と同じ方向に動く傾向があり、11月の失業率が10月の3.9%と同水準にとどまる可能性の高いことを示している。一方、現在の景気に対する判断（「良い」-「悪い」）が+0.3（前月▲0.5：速報+0.8）とプラスに転じており、現在の景気に対する見方が楽観的となった。

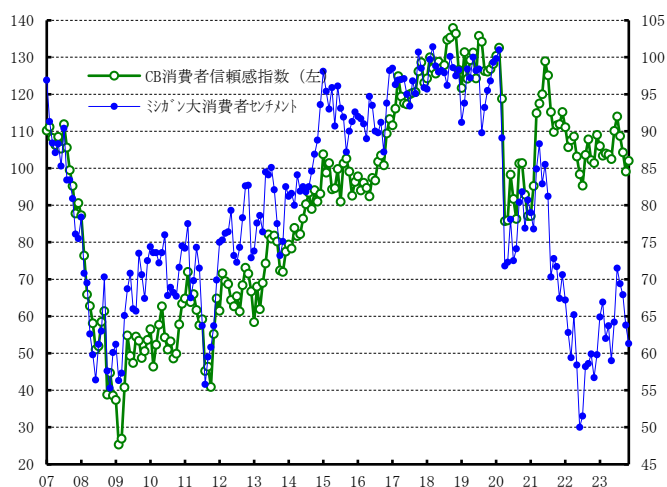
期待指数の構成項目では、「収入」がプラス幅を拡大したほか、「景気」、「雇用」がマイナス幅を縮小した。6ヵ月後の収入に対する見方（「増加する」-「減少する」）は、+5.1（前月+2.2：速報+2.6）とプラス幅を拡大し、収入に対する楽観的な見方を強めた。また、6ヵ月後の景気に対する見方（「良くなる」-「悪くなる」）は、▲2.2（前月▲5.4：速報▲3.7）とマイナス幅を縮小し、景気の先行きに対する悲観的な見方を弱めた。さらに、6ヵ月後の雇用に対する見方（「多くなる」-「少なくなる」）は、▲3.5（前月▲4.4：速報▲3.0）とマイナス幅を縮小し、雇用の先行きに対する悲観的な見方を弱めた。

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド*	
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状	
	期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
23/03	104.0	74.0	148.9	47.9	11.4	16.4	19.2	11.0	6.0	62.0	59.2	66.3
23/04	103.7	71.7	151.8	47.5	10.6	14.1	21.4	10.0	5.5	63.7	60.6	68.5
23/05	102.5	71.5	148.9	43.3	12.6	13.2	21.4	11.5	5.9	59.0	55.1	65.1
23/06	110.1	80.0	155.3	45.4	12.6	14.6	17.7	11.0	5.9	64.2	61.1	68.9
23/07	114.0	88.0	153.0	43.7	11.3	17.2	14.5	11.7	5.6	71.5	68.3	76.5
23/08	108.7	83.3	146.7	39.9	13.2	17.5	17.3	12.3	6.1	69.4	65.4	75.5
23/09	104.3	76.4	146.2	39.7	14.2	15.3	18.7	11.7	5.5	67.9	65.8	71.1
23/10	99.1	72.7	138.6	37.9	14.1	15.5	20.9	10.3	5.0	63.8	59.3	70.6
23/11	102.0	77.8	138.2	39.3	15.4	17.3	19.5	11.1	5.3	61.3	56.8	68.3

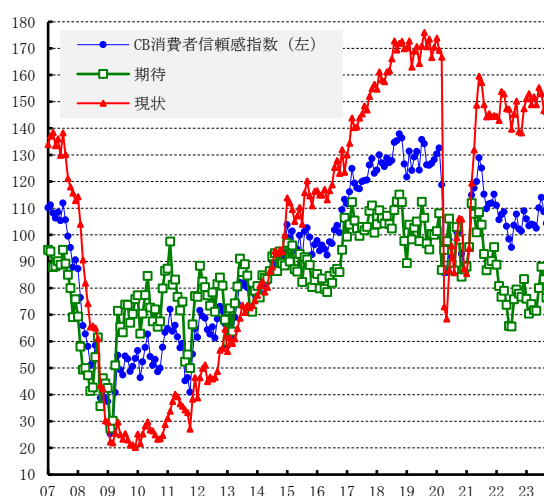


(図表) 消費者マインドの動向(月次)



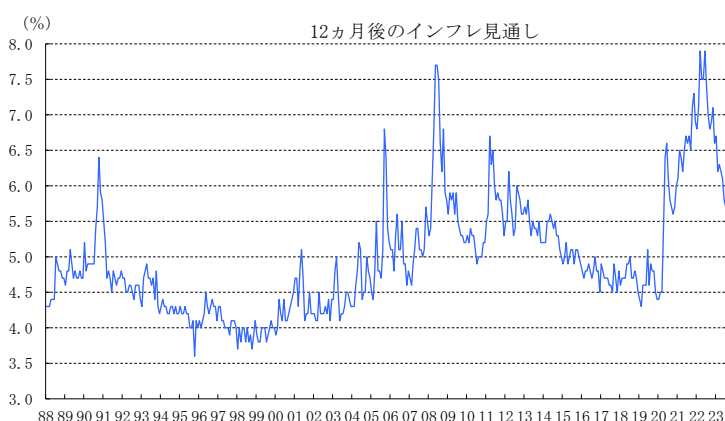
(出所) CB、ミシガン大学

(図表) 消費者マインドの動向(月次)



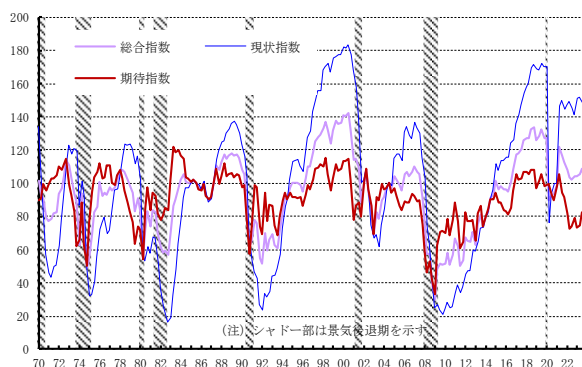
(出所) CB

インフレに関しては、1年先のインフレ見通しが5.7%（前月5.9%）と高い上昇が予想されており、インフレの鈍い低下が継続することを示唆している。

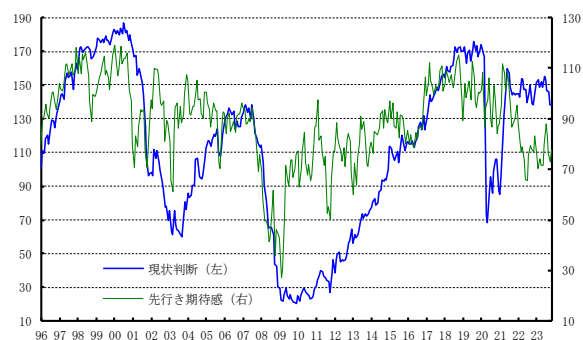


24年初にかけて、利上げ終了期待の高まりを受けた長期金利の安定や、景気後退懸念の弱まり等が、期待指数の下支えに繋がる可能性が高い。一方、これまでの利上げや中堅銀行の破綻を受けた信用状況の引き締め、市場金利の上昇、コスト増加等を受けた景気の減速、労働需給ひっ迫の緩和を背景に、現状指数が低下すると見込まれる。この結果、CB消費者信頼感指数は90台に低下し、個人消費減速の一因になると予想される。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

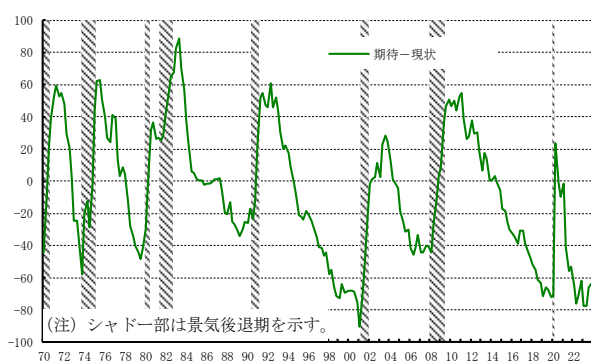


消費者信頼感指数の推移

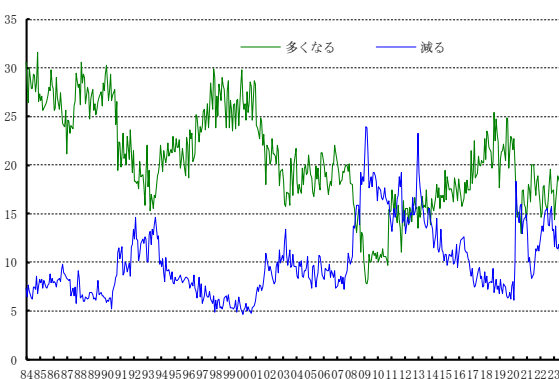


(出所) C B

(期待指数-現状指数)の推移



(%) 6ヶ月後の収入見通し



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。